

アリの観察を続けよう！

いま、市民ひとりひとりが科学的な活動に参加して、研究者や研究機関などと協調して地域社会に貢献する、シチズンサイエンスが世界中で広がっています。自然しらべも、参加者の皆さんからお寄せいただいた情報を集め政策提言を行うなど、参加者の皆さん・会員の皆さんと共にこの考えを実践しています。

今回テーマとしたアリは、自宅や身近な公園でも数種類を観察することができる生きものです。日頃よりアリに関心を持ち観察し続けることで、身近な場所の自然の変化を察知することができます。またここ数年、ヒアリなどの特定外来種のアリが国内に侵入してきているため、継続してアリに注目し続けることで、市民がこれらのアリの定着を初期段階で発見することも期待されています。

また、日本自然保護協会の会員・自然観察指導員の皆さまは、フィールドでの自然観察会やイベントを開催される機会も多いと思います。そんな機会にぜひ一度、みんなを誘ってアリしらべをはじめませんか。当会にご連絡をいただければ、情報の提供や講師の派遣などご協力することもできます。

● 特定外来種のアリ、ヒアリ(アカヒアリ)を見つけたら

ヒアリかな?と思ったら、各市区町村、各都道府県や環境省のヒアリの対策部署に連絡をして、確認してもらいましょう。環境省ヒアリ相談ダイヤル(06-7634-7300)

● アリに刺されたら

ヒアリやアカカミアリの毒は人によって反応が異なります。刺された部位を冷やしながら安静にして30分程度様子をみましょう。その間はなるべく一人にならないようにして、すぐに救助を得られるようにしましょう。

【写真と記録についてのお願い】

お送りいただいた写真と記録は、貴重な資料として日本自然保護協会で大切に保管します。また個人情報を除き、自然しらべに関する広報や自然保護の発展のために事前のお断りなく公表し活用させていただく場合があります。ご了承のうえお送りください。

【個人情報の利用目的】

お預かりする個人情報は、自然しらべの企画運営と、当会からの自然保護の情報提供にのみ利用します。ご本人の承諾なしに、第三者に提供することはありません。

●主催: 公益財団法人日本自然保護協会 ●協賛: サニクリーン、カラータ ●学術協力: 寺山守(理学博士) ●協力: E-ne! ~good for you~ (FMヨコハマ)、The FLINTSTON (bayfm)、学研 ●写真: 高野 丈

あなたも自然を守る仲間になりませんか 会員募集中!

〒104-0033 東京都中央区新川1-16-10 ミトヨビル2F TEL.03-3553-4102 FAX.03-3553-0139 Mail shirabe2019@nacsj.or.jp

日本自然
保護協会

自然のちからで、
明日をひらく。

全国 アリしらべ!

自然しらべ2019

結果レポート

2018年と2019年の2年間にわたって行った自然しらべ。1年目はご自宅のお庭や近所の公園など、皆さんの身近な場所のアリをしらべました。2年目は生物多様性や人の暮らしを脅かす存在である特定外来種にも目を向ける機会として、外来のアリに注意しながらしらべました。のべ2,201名が参加して287地点からの情報を得ることができました。報告のあったアリは2年間で81種類にもなりました。この調査で得られた情報や全国のアリの現状をお伝えします。

主催 公益財団法人日本自然保護協会

協賛  Sanikleen  COLORATA

協力 E-ne! ~good for you~ (FMヨコハマ)

THE FLINTSTONE (bayfm)

Gakken

調査地点の分布図



自然しらの 2年間の概況

2年間の調査で得られたアリの情報は、各年でランキングの上下はありますが、ほぼ上位10種類の構成は変わりませんでした。日常的に普通に見られるアリについては、急激な変化が見られないことがわかりました。

種名	2018	2019	合計
クロヤマアリ	145	30	175
トビロシワアリ	112	19	131
アミアリ	101	26	127
ハリブツシアゲアリ	85	11	96
クロオアリ	73	22	95
トビロケアリ	72	14	86
オオズアリ	71	9	80
アメイロアリ	60	19	79
オオハリアリ	55	15	70
サクラアリ	4	10	58

分布に変化が見られた、 外国由来のアリ

ランキングに上がらなかったアリの中で、戦前に外国から日本に来たとされ、今回の調査で特に注目すべき分布変化が見られたアリを紹介します。

●ケブカアメイロアリ

本州に本来生息しておらず九州以南に分布の見られたアリでしたが、1994年に広島県で発見されました。この記録以降、太平洋岸を中心に次々と発見されるようになり、日本海側の石川県や近年は東京都や神奈川県などの関東地方でも報告されました。

自然しらべでは、2018年度に名古屋市内の公園などで3か所見つかるなど分布を確実に広げていることがわかりました。さらに2019年度は東京都江東区で1か所、兵庫県神戸市で2か所からの報告がありました。

●クロヒメアリ

島部を除いた関東地方では、2015年に東京都大田区の公園で初めて発見され、その後2017年に神奈川県横浜市で、2018年に東京都墨田区で記録されているアリです。今回の自然しらべでも各地から報告されており、2018年は東京都八王子市と埼玉県坂戸市から、2019年は神奈川県横浜市から報告されました。本州で急速に分布を広げている種の様です。



撮影：平尾陽向子さん(山口県)

●ルリアリ

これまで中部地方の沿岸部以南では多く確認され、近年は関東地方でも頻繁に見られるようになったアリです。関東地方では1970年以前は神奈川県の海岸沿いに分布が限られていましたが、1990年以降は各地で次々と生息が確認されるようになりました。自然しらべでも埼玉県での3か所の報告も含めて2年間で17か所見付き、各地で密度を増していることがうかがえました。



撮影：寺本匡寛さん(愛知県)

侵略的外来アリの報告がありました

●アルゼンチンアリ

外来生物法で緊急対策外来種にも指定されているアルゼンチンアリが、2019年の自然しらべで広島県廿日市市と兵庫県神戸市で確認されました。

アルゼンチンアリは1993年に広島県廿日市市で日本への侵入が確認され、その後1999年には広島県広島市と兵庫県神戸市で生息が確認されました。現在、防除対策がおこなわれているものの次々に分布の拡大が報告され、西は山口県から東は東京都までの12都府県からも記録されています。

本種は著しい環境攪乱を引き起こすほか、農業害虫、家屋・衛生害虫としても私たちの生活に大きな影響を与えます。難防除害虫で、侵入地域で分布を大きく広げてしまうと、このアリの持つ高い増殖力により根絶は不可能です。ただし、集団が小さい段階では根絶可能で、現在東京都、神奈川県、静岡県の集団で根絶に成功しています。侵略性の高い外来アリは初期発見による徹底根絶が重要です。



撮影：坂井章さん(広島県)

そのほか影響が 心配な外来アリの報告

●クロコツブアリ

体長1-3mmほどの小型で黒いアリで、触角が9節からなる特徴を持ちます。本種の原因は南米ですが、アメリカ合衆国に侵入し分布を広げています。アメリカでは頻繁に家屋に侵入し、衛生害虫、不快害虫とされ“rover ant(うろつきアリ)”と呼ばれています。日本では2002年に兵庫県神戸市の六甲アイランドから報告されました。

自然しらべでも、六甲アイランドで確認され、今回の発見で本種の分布が広がっていることも判明しました。

気になる「ヒアリ(アカヒアリ)」の 2020年1月の状況

世界的規模で被害を及ぼしているアカヒアリは、国内では2017年5月に兵庫県尼崎市で発見され、以降船舶が運ぶコンテナ貨物から次々と発見されるようになりました。現在15都道府県から48事例(2020年1月段階)もの侵入記録があります。本種は、ピペリデン・アルカロイドと呼ばれる猛毒を持ち、人や家畜への刺咬被害が著しい南米原産の侵略的外来種です。本種の被害は衛生害虫、畜産害虫に留まらず、農業害虫、生態系攪乱者、そして機械故障を引き起こす有害動物としてさまざまな被害を世界で与えており、最大の被害国のアメリカ合衆国では年間6000-7000億円の被害が生じているとされています。

アカヒアリが、世界規模で被害を与え、かつ防除が著しく困難である要因は、一つに侵入先での繁殖力が並外れて大きく、極めて高密度になることと、働きアリの行動が極めて活発で攻撃的である点です。通常の防除法で個体数を減少させても、その並外れた繁殖力により、速やかに元の状態に戻ってしまいます。薬剤を散布すればもちろん一時的に減りはしますが、どこかに女王が生き残れば、すぐに元の個体群密度に回復してしまうのです。さらにもう一つの点として、定着に成功したアカヒアリは、私たちの社会の交通網に便乗してものすごい速度で分布を拡大して行きます。新女王が巣から飛び立ってしまった場合、交通網に付帯して国内のどこに運ばれて定着するか、見当がつかないのです。

●寺山守先生より(学術協力者)

特定外来生物のアリの侵入・定着は、我々の日常生活を著しく不便にさせ、これらのアリに対応した生活様式をとらざるを得なくなります。例えば、アカヒアリは毒針を持ち、巣があれば刺される危険がありますので、公園や広場が使えなくなります。春の花見も夏の花火大会も見学場所が限定されてしまいます。我々の社会のさまざまな部分に入り込んで広範に被害を与える生活破壊者、社会破壊者です。

このような侵略者に対して、私たちが自身の生活している環境を守るために、日常的に周囲に目を光らせ、アカヒアリの侵入を監視することが最も有効かつ重要だと思います。今回の緊急事態に対して、数少ない専門家に任せるのではなく、みんなで日本の自然と私たちの生活を守っていく姿勢こそ最大の力になると思います。

